

# 大学講義で使用されている副詞・形容詞の特徴

十島 真理 金久保紀子

## 要 旨

専門分野別の日本語教育のための基礎的研究として、大学の講義を取り上げ、その中で使用されている副詞と形容詞の頻度、形、機能などに注目した分析を行った。分析資料には構造工学分野と言語学分野の4講義ずつ文字化したものを用いた。

その結果、副詞では使用頻度1度の副詞が半数を占め、それぞれの分野に特徴的にあらわれる副詞があること、談話的機能を持った副詞が使用されていること、日本語教育基本語彙との重複が70%程度あることなどが明らかになった。形容詞では、活用などの形の変化はあまりなく、発話の中の位置的な問題が大きいこと、同じ形容詞が繰り返し使用されていること、日本語教育の初級で学習する形容詞が多用されていることなどがわかった。

結論として、講義の理解のためには日本語教育基本語彙の徹底は不可欠であり、早い段階から基本語彙の意味や機能に注目した教育がなされるべきであることを指摘した。

【キーワード】 副詞 形容詞 講義の聴解 基本語彙

## The Usage of Adverbs and Adjectives in University Classes

Toshima, Mari  
Kanakubo, Noriko

Some characteristics of the usage of adverbs and adjectives are discussed in this paper in order to investigate the factors important for understanding university classes by learners of Japanese. Adverbs and adjectives taught at beginner's level of Japanese education were often used in the classes, some of which were used frequently. The conclusion shows the importance of teaching basic vocabulary in Japanese language education.

## 1. はじめに

近年、大学・大学院での研究や教育を目的として留学生、研究生に対する専門分野別の日本語教育の重要性が高まってきている。理科系の各分野では、分野により日本語の必要性は異なるが、専門文献の読解からセミナーなどでの発表にいたるまでその必要性は低くない。特に講義を受けることは留学生たちにとって必須のものである。これらの理由により講義聴解に関する基礎的な研究が最近徐々に行われつつある<sup>(1)</sup>。

本研究は、従来行われてきた講義の大まかな特徴をつかむ分析から一步踏み込み、細かな品詞別の特徴を明らかにしようという試みである。今回の分析では講義の大筋を理解することから進んだ段階として、講義の正確な理解には不可欠と考えられる副詞と形容詞の使用の分析に絞った。この論文は、その特徴を明らかにし、講義聴解のための基礎的な資料を作成することを大きな目的としている。

## 2. 研究の目的と分析の背景

従来、日本語学習において、副詞の習得は困難であることがいわれている(小林1991他)。その困難点の一つには統語的な問題がある。副詞において、学習者がおかしやすい誤りといわれるものには、語の選択や呼応の問題、語順等がある(野田1983)。打ち消しの呼応の副詞なども、母語との統語的な異同等の理由により習得が容易ではない。また、呼応が語法的な否定に限らず、「形・意味上での否定」である点も困難な原因であろうという指摘がなされている(水谷1988)。音象徴語などは、置語形などをとり、その造語力は高く、いちじるしく例が多い(国立国語研究所1985、以下国研1985と略記)ことも習得を困難にしている。その上、副詞は用言の語彙の意味に関わるだけでなく、発話者の心的態度にも関わってくるため構文的にも、意味的にも非常に多様である。

林四郎による「教育基本語彙」(国研1984)は新聞基幹語彙という書きことばを基にしたものではあるが、その中における副詞の割合は9.23%と高く、副詞教育の重要性を示唆しているといえる。

話しことばについての「語」の調査としては、国研(1955)の日常談話の調査がある。調査の結果、全体における副詞の使用率は6.10%であり、体言、動詞、助詞、助動詞について高い数値がでている。また、新聞やニュースのことばなどとの比較から、副詞の使用頻度が高いこと、両者の間に語の種類と使用度数順位にかなり差があることも分かっている。

専門書における副詞の出現率は他の小説や戯曲と比べて2.5%とかなり低い(国研1981)。理工系の論文、教科書、実験書に使用されている副詞に関しては、「程度・数量・傾向」を表す副詞は出現する語が限定されており、語の難易度は高くないこと、また一般的な日本語教育における基礎的な語でかなりの部分をカバーできること、否定の呼応の表現も限られていることなどがいわれている(羽田野1989, 1991)。講義における語彙の分析は早川他(1992)があるが、名詞、形容詞、動詞に絞っており、副詞には具体的にふれられてない。

そこで今回は講義の中での副詞の具体的な使われ方に焦点を絞り、副詞の種類別の頻度、講義の中での機能に注目して分析を行うことにする。

一方、形容詞は現在までの様々な語彙調査から、語彙全体の中で占める割合はあまり高くないという結果が得られている。林(1975)では形容詞・形容動詞をあわせて4%弱である。また、国研(1981)では、『工作機械』という専門の文献をとりあげ語種・品詞の分析を行っているが、そこでの形容詞および副詞の占める割合は、のべ語数で10.6%であった。したがって、講義全体の中での形容詞の使用頻度は高くはないとあらかじめ予想することができた。しかし、構造工学の講義においては物の形状を詳しく描写する場合、言語学においては話し手である先生の印象や意見が加味される場合が多いことが予想され、講義を聴く学生に重要な情報を提供していると考えられた。

また、従来の形容詞の研究は、文中の形容詞の位置、形容詞のあらわす意味の範囲、または形容詞の種類、あるいは「形容詞」と「形容動詞」の差異についてなどに焦点が当てられてきた。ある決まった形式の話しことばの中での形容詞の現れ方を分析したものは多くない。特に講義という形式の話しことばを対象にした研究はまだなされていないのが現状である。講義を資料として扱った研究でも、形容詞の種類・頻度にも注目し、その形までは分析されていない。

そこで、講義の中での形容詞の現れ方・形に注目し、頻度の高い形容詞、頻度の高い形容詞の形、さらにそれぞれの形容詞の全体の中での役割について検討することとした。なお、この分析の中では、「形容詞」を「イ形容詞」、「形容動詞」という用語は使わず、「ナ形容詞」と呼ぶことにする。

講義において副詞および形容詞は、内容理解からすれば二次的なものであると考えられる。しかし、羽田野(1989)においても副詞と形容詞は「状況・性質・程度・量・傾向などの表現」としてまとめて分析されている。副詞・形容詞は修飾されるものを具体的に示すばかりではなく、発話者の発話態度を示すほか、独話における聞き手への配慮などの機能も有しているため、副詞および形容詞を的確に理解することは聴解をより容易にすると考えられる。以上のことから、副詞と形容詞をまとめて分析・考察することに意義を認めるものである。

### 3. 分析方法

#### 3. 1 分析資料

資料は、筑波大学の大学3,4年生対象の構造工学系4講義、言語学系4講義の計8講義を録音・録画し文字化したものを使用した。受講生数はほぼ同数で、各75分の講義形式であった。録音、録画は1991年5月から9月にかけて実施された。分析の単位は発話という単位(石田1993)を採用した。以下に各講義の内容を簡単に示す。

構造工学：材料力学、構造工学、振動力学、構造外乱論

言語学：言語行動論、現代日本語、心理言語学、日本語史

#### 3. 2 分析の項目

##### 3. 2. 1 副詞の分析項目

副詞の種類は、益岡(1992)をもとに、以下の8項目を設定した。

- 1) 状態の副詞
- 2) 擬音・擬態語
- 3) 程度・量の副詞
- 4) 時制(テンス・アスペクト)の副詞
- 5) 陳述の副詞

疑問、否定、依頼・命令・願望、概言・確言、伝聞、  
比況、感動、条件・譲歩の表現、

- 6) 評価の副詞
- 7) 発言の副詞
- 8) その他

また、副詞は発話の調子を整えたり、送り手の姿勢を微妙に伝えたりするという談話的な機能を有している(中田1991)。そこで中田(1991)にしたがい、以下のような機能に関して、具体的に検討を行った。それぞれについて例文を示す。例文の前の記号は、Kが構造工学会系の講義での発話を、Gが言語学系の講義での発話を示し、直後の数字は資料の講義番号、3桁の数字はその講義内での発話の番号を表している。それ以外の例文は中田(1991)から引用した。

- 1) 間投的な用法：強調、やわらげ、間つなぎ等

G2 176 えー、それからまあちよっと書いてみましょう。

G2 333 これはだからあのいわば促音便になった持っの形をですね、その促音を単独で書く、手段がない、えーから、この次ののやはり、てのTの子音に吸収させて、えーいわばその促音を独立して書かない、ね、持ちてじゃなくて

- 2) 心理的な働きかけの用法：配慮、謙遜、丁寧、取りなし、改まり

感情面で摩擦を回避するための方策

せっかくのお誘いなんです、あいにく明日は仕事がつまっています…

お目にかかって、ちょっと30分ぐらいお話をうかがいたいものですから。

- 3) 特定の発話行為と結びついた副詞：依頼・勧め、断り、同意、願望の表出、挨拶、

G3 143 子供さま、どうぞ読んでくださいということに…

G3 152 これは是非みなさんこの手本にいらておよみになるといいですね。

- 4) 談話構成に関わる副詞

G4 198 まあ、まずは最初はね、ま、従来の研究の成果の、成果によ、…

結局おなじことをいっているのかもしれないんですけども、要するに、そういう人があらわれ…

### 3. 2. 2 形容詞の分析項目

分析に際しては様々な日本語の教科書で取り上げられている主な形容詞の形が実際の講義でどの程度

使用されているのか、を観察することを主眼とし、項目を設定した。

- |                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 1) 連体修飾                 | 例 青い空         |
| 2) 連用修飾                 | 青く光る          |
| 3) 「形容詞＋です」で述語になっている形   | 青いです          |
| 4) 形容詞の言い切りの形で述語になっている形 | 青い            |
| 5) 形容詞＋んです              | 青いんです         |
| 6) 形容詞＋「ね、よ、か」などの終助詞    | 青いね、青いよ、青いですか |
| 7) その他活用されている形          | 青かった、青くない     |

#### 4. 分析の結果と考察

##### 4. 1 副詞の分析結果と考察

##### 4. 1. 1 使用語彙と使用頻度

発話中に現れた副詞の全ての語彙と使用頻度は付表1に示す。また、使用頻度上位20語ののべ語数の総計、及び全体からの比率は表1の通りである。

表1 使用頻度上位20語ののべ総数に対する比率

	20語統計	のべ語数	比 率
全 体	1074	2179	49.3%
構造工学	483	896	53.9%
言 語 学	671	1283	52.3%

使用頻度の高い上位20語に関しては、構造工学系の講義に「まず、通常、今、さっき、もう一回、あと」といった「談話構成の副詞」が多く、言語学系の講義に「あまり、少し、非常に、いろいろ、たくさん、かなり、全部、よく、大変、特に、一番」といった「程度・量、強調を表す副詞」が多く見られるという特徴がある。このことから、構造工学系の講義では、学習項目が比較的明確で、項目数も多く、講義が客観的に整然と進められていることがうかがえる。逆に、言語学系では、かなり感覚に頼った発言が多く、話し手である先生の心的態度が前面に出てきていると考えられる。ただし、「いわば」と「通常」は、言語学系、構造工学系にそれぞれ偏っているが、これは「いわば」がG1の講義で1回、G2の講義で30回使用されていること、「通常」がK3の講義で10回、K4の講義で16回使用されていることから、構造工学系と言語学系の差というよりも個人差が強く影響しているものと思われる。

全講義中に現れた副詞の異なり語数は表2の通りである。

表2 副詞の異なり語数

総 計	構造工学	言語学
302	192	206

使用頻度別による副詞の異なり語数の全体に対する比率は図1の通りである。使用頻度が150以上のものは、「ちょっと」(195回)、「例えば」(164回)である。

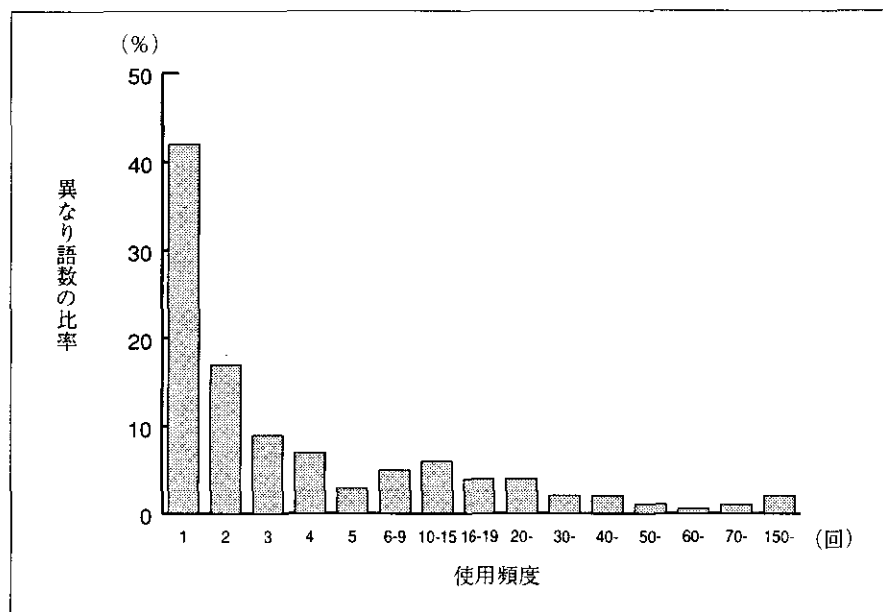


図1 使用頻度別異なり語数の比率

1度しか使用されない語が、全体の42%を占めていることから、副詞の種類が多いことと同時に、副詞の教育・習得が困難であることがわかる。言語学系の場合は、使用頻度が1度の語彙の中で「状態副詞」と「擬音・擬態語」が31語あり、44.3%を占めている。つまり、言語学系の講義は、感覚的な表現が多く用いられていることがうかがえる。

#### 4. 1. 2 副詞の種類

講義に使用されている副詞を、種類別に構造工学系と言語学系で比較した。のべ語数での結果を表3に、異なり語数での結果を表4にまとめた。表の見出しの1から8までの数字はそれぞれ1:以上、2:擬音、擬態語、3:程度・量、4:時制(テンス・アスペクト)、5:陳述、6:評価、7:発言、8:その他をコード化したものである。また、上段の数字はのべ語数、あるいは異なり語数を示し、下段の数字は構造工学系、言語学系のそれぞれの総計を100%としたときの割合を示す。

表3 種類別のべ語数の比較

	1	2	3	4	5	6	7	8	総 計
構 造 工 学	53 5.9	24 2.7	265 29.6	223 24.9	111 12.4	37 4.1	120 13.4	63 7.0	896
言 語 学	110 8.6	32 2.5	413 32.2	190 14.8	188 14.7	29 2.3	203 15.8	118 9.2	1283
全 体	163 7.5	56 2.6	678 31.1	413 19.0	299 13.7	66 3.0	323 14.8	181 8.3	2179

表4 種類別異なり語数の比較

	1	2	3	4	5	6	7	8	総 計
構 造 工 学	25 13.2	17 9.0	45 23.8	35 18.5	27 14.3	7 3.7	15 7.9	18 9.5	189
言 語 学	34 15.3	23 10.4	42 18.9	43 19.4	36 16.2	9 4.1	15 6.8	20 9.0	222
全 体	49 16.2	37 12.2	60 19.9	58 19.2	42 13.9	10 3.3	17 5.6	30 9.9	302

表3の「種類別のべ語数の比較」では、3「程度副詞」、および4「時制(テンス・アスペクト)の副詞」がよく使用されており、ついで7「発言の副詞」、5「陳述の副詞」が多くなっている。発言の副詞が多いのは、講義の特徴ともいえる。

また4「時制の副詞」は、明らかに構造工学系の講義の方が使用頻度が高い。これは、構造工学系の講義が言語学系の講義に比べて、内容に段階があることを示していると考えられる。金久保他(1993)にもあるように、構造工学系の講義は内容がかなりはっきりし、整然と行われているためであろう。

「陳述の副詞」は、日本語教育において学習者がとくに習得困難とされるもののひとつである。講義に現れた「陳述の副詞」の詳細を表5に示す。ただし、表中の数字は全体の語数を、また括弧内は、最初の数字が構造工学系の語数、後者が言語学系の語数を示している。

「陳述の副詞」において特徴的な点は、「条件・譲歩を表す副詞」が構造工学系に多い点である。構造工学系の「条件の副詞」が、構造工学系における「陳述の副詞」全体において20.7%を占めるのに対し、言語学系ではわずかに7.4%にすぎない。そのなかでも「もし」は、構造工学系において20回も使用されており、非常に特徴的な語となっている。また、「比況」「依頼」「感動」といった種類の「陳述の副詞」は使用が言語学系に偏っていることも一つの特徴である。「比況」「感動」のような感覚的な副詞の使用が頻度は少ないながらも、言語学系に認められることで、副詞の使い方について構造工学系と細かな点でも違いが認められる。

表5 陳述の副詞

種 類	語数	のべ語数 (構造、言語)	主な副詞 頻度 (構造、言語)
否 定	20	157(51,106)	あまり56(10,46) 別に16(2,14) 全然15(7,8) 全く14(9,5) ほとんど12(9,3) いくら10(5,5) なかなか9(1,8) 必ずしも5(2,3) 一切4(1,3) 少なくとも3(0,3)
概 言	10	64(24,40)	どうも17(2,15) たぶん16(13,3) おそらく10(1,9) 必ず10(4,6) なんか4(0,4) 確か3(2,1)
条 件	5	37(23,14)	もし29(20,9) どうせ3(2,1) 仮に2(1,1) いかに、たとえ
強 調	1	14(6,8)	いったい14(6,8)
比 況	2	7(0,7)	まさに1(0,1) まるで1(0,1)
依 頼	2	7(0,7)	ぜひ5(0,5) どうぞ2(0,2)
疑 問	1	16(7,9)	なぜ16(7,9)
感 動	1	2(0,2)	なんと2(0,2)

#### 4. 1. 3 講義における副詞の談話的機能

圧倒的に頻用されている「ちょっと」「例えば」等は、「程度副詞」、あるいは「発言の副詞」といった本来の意味で使用されているものの他に、特別な対人的な機能を持って働いているものがある。以下に例をあげる。

K2 092 あの一、これちょっとこういうのは、あ のあの一、実は問題があるんですけど、あの、そんな、ことについては…

K2 183 あちょっとひとつこたえてくれよ…

この機能は、発話者の微妙なニュアンスを伝えたり、本来の意味をほとんど失ってフィラー的に用いられったりする。講義の聴解としては、聞き流しても差し支えないものと考えられるが、日本語学習者には実質的な意味を持っているかどうかの判断は困難な点のひとつであろう。ここでは特に「ちょっと」を取り上げて分析した。表6に「程度副詞」として実質的に機能している「ちょっと」と、談話的機能を持っている「ちょっと」との比較を示す。表中、上段の数字はのべ語数をあらわし、下段はそれぞれの全体に対する割合を示す。

「ちょっと」が担っている談話的機能には、「和らげ」の機能、「問つなぎ」の機能、「配慮」を示す機能の3種類が見られた。以下にそれぞれの例文を示す。

##### 1) 「和らげ」の機能

K4 117 ついでにちょっと、言っておきますけどね

G3 015 ちょっとお断りしなくちゃいけないんですけど

##### 2) 「問つなぎ」の機能

G1 590 あの一、ちょっとね、あの一、あれです。



### 3) 「配慮」示す機能

K4431 ちょっと見ていただきたいのはね

	程 度	談 話 の 機 能			合 計
		和らげ	間つなぎ	配慮	
構 造 工 学	16 21.1	41 53.9	3 3.9	16 21.1	76
言 語 学	37 29.8	64 51.6	13 10.5	10 8.1	124

「間つなぎ」と「配慮」を示す「ちょっと」は、学習者からその使用について指摘されることはあっても、日本語教育においては体系的には扱われていない。

講義に使用されている副詞がどの程度の語彙レベルのものなのかをはかるために、他の「語彙調査」との比較を行う。科学技術分野の専門文献に使用される副詞は、一般の日本語教育で扱うものではほとんどカバーできるものとされている(羽田野1991)が、話しことばのひとつの形態である講義においても、それがいえるのかどうかを調べるために下記の1)、2)を比較資料とした。また、新聞という典型的な書きことばであり、講義とはかなり質が異なるがもっとも最近の大きな計量的語彙調査であることから下記の3)も比較資料とする。

- 1) 日本語教育のための基本語彙調査 「基本語二千」 (国立国語研究所1984)
- 2) 同上 「基本語六千」
- 3) 電子計算機による新聞語彙調査 (国立国語研究所1971)

- 9 -

表7 「語彙調査」の重複率

	「二千」		「六千」		「新聞」	
	重複語	%	重複語	%	重複語	%
構 造 工 学	82	27.2	134	44.4	64	21.2
言 語 学	89	29.5	155	51.3	75	24.8
全 体	105	34.8	190	62.9	87	28.8

講義に使用されている副詞の使用頻度の上位20語について、それぞれ「二千」「六千」「新聞」と比較してみた。「二千」では、20語中17語が含まれており、重複率は85%である。「六千」は19語で95%、「新聞」は12語で60%が重複している。これより、上位20語は一般の日本語教育で取り上げられる副詞で、ほとんどがカバーできることが明らかである。上位20語は、講義に使用される副詞ののべ語数のほぼ半数を占めていることから、講義で使用される副詞の半数を初級で学習する副詞でまかなっていることが明らかになった。

次に副詞の種類ごとに、それぞれ「語彙調査」と比較する。比較結果は表8の通りである。ただし、表の上記の1から8までの数字は表3同様、副詞の種類をコード化したものである。また、その下の括弧内の数字は各種類別の副詞の異なり語数を示したものである。表中上段の数字は重複語数、下段の数字はそれぞれの種類の異なり語数に対する割合を示す。

表8 副詞の種類別の「語彙調査」との比較

	1 (49)	2 (36)	3 (60)	4 (58)	5 (42)	6 (10)	7 (17)	8 (30)	計 (302)
「二 千」	8 6.3	0 0	23 38.3	30 51.7	21 50.0	3 30.0	7 41.2	13 43.3	105 34.8
「六 千」	21 42.9	2 5.6	43 71.7	47 81.0	34 84.0	7 70.0	14 82.4	22 73.3	190 62.9
「新 聞」	6 2.2	1 2.8	20 33.3	24 41.4	16 38.1	3 30.0	6 35.3	11 36.7	87 28.8

これらの比較からいくつかの特徴的な点があげられる。ひとつは、副詞の種類によって重複の比率にかなり差があるということである。1「状態副詞」や、2「擬音・擬態語」は、それぞれ異なり語数での全体の副詞使用に対する割合が16.2%、11.9%と高いが、「基本語彙」との比較では1「状態副詞」が半分以下、「擬音語・擬態語」はほとんどがカバーできないという結果がでている。これは、「基本語彙」自体に「状態副詞」や「擬音・擬態語」が少ないからであることと「擬音語・擬態語」の造語性などによる副詞の多様性に起因するものであると考えられる。

しかし、4「時制の副詞」、5「陳述の副詞」は、「二千」で50%をカバーし、4、5及び7「発言の副詞」は、「六

千」で80%をカバーできる。「六千」でカバーできなかった語は、以下の語であった。

- 4: おいおい、往々に、そもそも、未だに、後ほど、今さっき、
- 5: 概して、さぞかし、ひょっとすると、いかに、どうにも、なにも、
- 6: ちなみに、念のために、

その他の種類も、「六千」で70%はカバーできる。つまり、「状態副詞」と「擬音語・擬態語」を除いたものに関しては、「講義の副詞」は一般の日本語教育で扱われる副詞で最低70%はカバーできることが明らかになった。

## 4. 2 形容詞の分析結果と考察

発話全体に対する形容詞の使用の状況は、イ形容詞は構造工学、言語学共に16%の発話で使用されており、ナ形容詞は構造工学で4%、言語学で5%の発話で使用されていた。この結果は、過去の語彙調査の結果と比べると、イ形容詞の使用割合が非常に高くなっている<sup>2)</sup>。使用された形容詞の一覧は付表2に示す。

### 4. 2. 1 イ形容詞の使用頻度と種類

表9にイ形容詞の頻度と割合を示す。表中の項目名「辞書」は「形容詞の言い切り形で述語になっている形」(例: 空が青い。)を指す。また「終助詞」は「ね・よ・か(かい)・な」の終助詞が形容詞について形を示している。ただし、「終助詞」の項には、例えば「青いですね」「青いですか」などの「です」に終助詞がついた形も含まれている。上段の数字は頻度を、下段の数字はそれぞれの総計に対する割合を示す。

表9 イ形容詞の使用頻度と割合

	連体	連用	です	辞書	んです	終助詞	その他	計
構 造 工 学	42 12	23 7	10 3	51 15	35 10	128 37	60 17	349
言 語 学	96 26	50 14	9 2	74 20	56 15	64 17	21 6	370

特徴的なのは、言語学に連体修飾・連用修飾の形の割合が多くなっていることである。連体修飾の場合は形容詞が修飾している語が形容詞の近くにある。しかし、連用修飾の場合は、聞く方にとっては、形容詞の持つ情報を頭に入れながら述語を待たなければならず、形容詞が述語として用いられる場合よりも、聴解が困難になっていると考えられる。

また、日本語教育の場面でイ形容詞を扱う際に必ずといっていいほど強調されるイ形容詞の活用(例: 青くない、青かった、青くなかった)は、構造工学で2例、言語学で6例しかなかった。

さらに、述語として用いられる場合には、言い切り形・「～んです」と一緒に用いられる場合、終助詞

と一緒に用いられる場合と少なくとも大きく3種類がある。頻度と全体からの割合を考えると、終助詞と形容詞をいっしょに用いる形が重視されるべきである。また、日本語教育の初期の段階で強調される「です」の形は、講義の中では多く用いられない。

構造工学・言語学に共通して他の品詞の語彙をイ形容詞化させた形がいくつか用いられていた。共通して現れていたのは、「～にくい」「～やすい」「～くさい」の3つであった。また構造工学では「～っぽい」という形も使われていた。これら他の語彙をイ形容詞化させる表現は初級の日本語教育ではほとんど扱われていない。

使用されたイ形容詞の中でもっとも頻度が高かったのは「いい」である<sup>19)</sup>。以下に例を示す。

- K1 251 いいですか。
- K2 551 よろしいですね。
- K2 553 そこまでいいですか。
- G1 622 なんかいいですか、質問ありますか。

以上のような発話の主な機能は、理解の確認や話題を変える直前のマーキングであった。特に構造工学の講義では、授業内容に段階があるため、学生の理解を確実にしてからでないと先に進めない事情がある。そこではこのようなマーキングが学生の注意を促したり、講義者自身が区切りをつけるために重要になっていると考えられる。

- さらに条件節と一緒に複文形式の発話の中で用いられる例も多い。
- G1 614 (中略)ということを考えてもらうといいんじゃないかと思います
  - G4 517 Dじゃ〇〇が作ればいいかっていうと、(後略)
- このように「いい」の使われ方は多用であり、受講者は常に何が「いい」の対象になっているかを注意しながら講義を聴く必要がありそうである。

3. 4. 2 ナ形容詞の使用頻度と種類

表10にナ形容詞の使用頻度を示す。分類項目はイ形容詞の場合と同様である。ナ形容詞はイ形容詞に比べ、全体の使用頻度がかなり低い、表中の数字は表9と同様である。

表10 ナ形容詞の使用頻度と割合

	連体	連用	です	辞書	んです	終助詞	その他	計
構 造 工 学	46	55	18	3	8	5	7	142
	32	39	13	2	6	4	5	
言 語 学	60	50	8	8	13	6	9	154
	39	32	5	5	8	4	6	

構造工学・言語学ともに連体修飾・連用修飾の形で用いられることが多い。その他の項目で用いられる割合はかなり低くなっている。連体修飾・連用修飾のどちらにおいても、否定形で用いられた例はなかった。またイ形容詞に見られたような、終助詞との併用も例は多く見られなかった。構造工学と言語学には、どの項目においても差がない。以上のことから講義におけるナ形容詞の理解については、ナ形容詞の形よりも語彙の意味的な問題が大きいことがうかがえる。

また、ナ形容詞の中で、構造工学では22%、言語学では48%の割合で、「～的」という形が用いられていた。その中には、1)一般的な語彙に「的」つけてナ形容詞化したもの、2)専門用語に「的」をつけてナ形容詞化したものがあつた。今回の資料では構造工学と言語学に重複して用いられていた「～的」のナ形容詞はなかった。それぞれの例を以下にあげる。

1) <構造工学>	<言語学>	2) <構造工学>	<言語学>
基本的	基礎的	静的	拗音的
概念的	巨視的	動的	直音的
最終的	職業的		
支配的	印象的		
物理的	革新的		

また、構造工学では、英語の専門用語に直接「的」をつけてナ形容詞化した例が見られた。以下に例を示す。英語の専門用語を用いることが聴解にどんな問題があるのかはまだ不明であるが、この使い方はどの分野でも観察できることなので、日本語教育でも積極的に取り上げる必要があると考えられる。

K1 094 これはピュアーなせん断の場だということなんです。

K1 207 (前略)スタティカリーイクイバレントな置き換えをする。

また、ナ形容詞においても、活用などその他の占める割合はかなり少ない。イ形容詞の結果と合わせて考えると、形容詞について日本語教育で強調されている事項が必ずしも講義では使用されていない様子がうかがえる。

#### 4. 2. 3 日本語教育基本語彙との比較

構造工学・言語学のそれぞれで使用頻度の高い上位10の形容詞、およびそれぞれの全体数に占める割合を以下に示す。

##### <構造工学>

イ形容詞：いい、いけない、等しい、うすい、細い、小さい、多い、よろしい、細かい、やさしい、大きい、低い、面倒くさい (全体の81%)

ナ形容詞：だめな、簡単な、重要な、大きな、大変な、得意な、変な、いやな、基本的な、幾何学的な、厳密な、単純な、適当な、等価な、微小な、複雑な、面倒な (全体の42.2%)

〈言語学〉

イ形容詞：いい、おもしろい、多い、少ない、大きい、新しい、近い、古い、難しい、長い  
(全体の64.1%)

ナ形容詞：だめな、大きな、好きな、大事な、いろいろな、小さな、きれいな、必要な、変な、基礎的な、巨視的な、重要な、職業的な、大丈夫な、大変な、無理な、有効な、拗音的な  
(全体の51.3%)

割合をみると、イ形容詞のほうがナ形容詞よりも同じものが繰り返して使用されていることがわかる。上位5までの形容詞はすべて「二千」と重複している。また、構造工学・言語学それぞれの3講義以上で共通して用いられた形容詞は表11、の通りである。表11の形容詞はすべて「二千」と重複しており、初

表11 複数の講義で使用される形容詞

〈構造工学〉		〈言語学〉	
イ形容詞	ナ形容詞	イ形容詞	ナ形容詞
大きい	簡単な	新しい	大きな
細かい	重要な	大きい	きれいな
細い		おもしろい	だめな
長い		少ない	
いい		難しい	
		いい	

級の前半で学習するような形容詞である。

以上の結果から、かなり平易な形容詞、特に初級の前半で扱われる形容詞が繰り返して使用されている状況が明らかになった。

## 5. まとめと今後の課題

### 5. 1 副詞のまとめ

本研究で以下のことが検証された。

- ・使用頻度の高い上位20語の副詞では構造工学は「談話構成の副詞」が、言語学の講義は「程度・量、強調を表す副詞」が多く見られる。
- ・のべ語数、異なり語数ともに、「基本語六千」で70%前後の語がカバーできる。
- ・使用頻度が1度の語が全体の42%を占めている。

- ・種類別使用頻度では、「程度副詞」「時数の副詞」「発言の副詞」「陳述の副詞」の順に使用が多い。
- ・「時制の副詞」は構造工学系に多い
- ・「陳述の副詞」において、「条件・譲歩を示す副詞」が構造工学系に多い。また、「比況」「感動」の副詞は言語学系に偏っている。
- ・構造工学系には「配慮」の、言語学系には「間繋ぎ」の談話的機能を持つ副詞がみられる。

以上のことから、講義における副詞の使用に関しては、使用語彙の差はあるものの、語彙的な難易レベルにおいては、構造工学系と言語学系にはあまり大きな差は見られないことが明らかになった。講義は書きことばをもとにした話しことばだといわれているが、講義における副詞の使用は、書きことばのそれとはかなりかなり性質が異なることも明らかになった。

また副詞から見るそれぞれの講義の特徴は、構造工学では内容の段階を追って、学生の理解を促しながら、客観的な態度で講義が進んでいる点、言語学の講義では感覚的な副詞を使用しながら、話し手である先生の態度が前面に出ているという点である。

## 5. 2 形容詞のまとめ

考察をまとめると以下ようになる。

- ・構造工学においては、イ形容詞と終助詞との併用が特に多い。特に「いい」との併用がかなり多い。
- ・ナ形容詞では連体・連用修飾が多い。
- ・講義の中で、形容詞の活用形は、イ形容詞・ナ形容詞ともに多く用いられない。
- ・理解の確認や話題を変える直前のマーキングとして「いい」が多様されている。
- ・「～的」を使ってナ形容詞化している語彙が多い。
- ・頻度の高い形容詞は「二千」でほとんどカバーされている。
- ・羽田野(1989)と同様の結果が得られたことで、専門文献との共通性が確認できた。

イ形容詞は構造工学と言語学で差はあるものの、ナ形容詞に比べて上位20語によるカバー率も高いことから、同じ語がいろいろな状況で繰返し使用されていることが明らかになった。逆に、上位20語によるカバー率が低いナ形容詞の理解には、活用形などの形よりも語の意味的な問題が大きいことがうかがえる。つまり、語構成的に漢字熟語が多いナ形容詞は聞き手の語彙力を要求することがはっきりした。

日本語教育における語の難易度から見ると、構造工学と言語学にははっきりとした差がない。傾向として物や式の描写する形容詞が構造工学に多く、「好きな」「きれいな」などの感覚的な形容詞が言語学に多いことが確かめられただけである。

## 5. 3 日本語教育への提言

副詞および形容詞について、講義で使用される語彙は、日本語教育における初級レベルの語彙がかなり重要であることが明確になった。また、講義の聴解のために副詞・形容詞の教育の際に重視されるべき点がいくつか明らかになった。

まず、副詞については使用頻度が低い副詞を細かく追求するよりも、多用される副詞の使い方に十分に慣れる必要性が高い。また多用される副詞の次にはどんな情報が添加されているのか、といった推測が重要であろう。

講義聴解のための練習としては、まず「談話構成の副詞」を的確に聞き取る練習が大切である。講義、特に構造工学系の講義では、「談話構成の副詞」の聞き取りができれば、講義のトピックが理解しやすくなるはずである。また、構造工学系では使用がある程度決まっている陳述の副詞のうち「条件・譲歩を示す副詞」の聞き取り練習も有効であろう。言語学の講義では、逆に、副詞に関する幅広い知識が必要となるが、フィラー的な副詞を聞き流す練習が重要になる。長い発話の中で、不必要な情報は切り捨てていく練習を行う必要があるだろう。

次に形容詞については、活用による形容詞の形の変化を重視するのではなく、連体・連用修飾、あるいは述語といった発話の中の位置の問題、あるいは「～的」を使ってナ形容詞となる漢字熟語の意味的な問題に注目することが必要である。またイ形容詞と終助詞との関係により、どんなニュアンスを伝えられるのかといった、基本的ながらいまだに徹底されていない点も強調されるべきである。また「いい」の様々な使われ方にも初級終了時などにまとめて触れておくことも有効であろう。練習としては初級で学習した平易な形容詞が実際の専門の場ではどんなものを修飾する、あらわす可能性があるのかといった、形容詞の意味の広がりや学習者が確認する機会を与えるべきである。

#### 5. 4 今後の課題

本研究では、主に数量的な面を分析してきたので、意味的、構造的な面からの分析が不十分であった。また今後は、語彙のレベルに留まらず、講義の構成における役割的なものを、語彙より大きい単位で明らかにしていくことも重要であると考えられる。

#### 注

- (1) 先行研究としては、重松(1987)、東京大学工学部1989春期日本語コース講師チーム(1989)、伊藤(1990)、深尾(1991)、早川他(1992)、金久保他(1993)、金久保(1993)、十島他(1994)等がある。
- (2) 今回の分析資料とした講義全体の語彙数が明らかでないので単純な比較はできない。
- (3) 「いい」がイ形容詞全体に占める割合は構造工学で59.3%、言語学で33.0%であった。
- (4) 本研究では「専門用語」の定義を明確に行うことに対して必要性を認めなかったため、定義づけは行っていない。

#### 参考文献

1. 石田敏子研究室(1993)『講義の日本語における理科系・文科系の特徴1』研究報告書
2. 伊藤真理子(1990)「日本人による話しことばの特色についての一考察—大学講義を対象に—」  
『日本語と日本語教育』19: 81-84



3. 金久保紀子他（1993）「講義の日本語における理科系・文科系の特徴」『日本語教育』80
4. 金久保紀子（1993）「大学講義における接続の表現」『日本語と日本文学』18
5. 国立国語研究所（1995）『談話室の実態』国研報告8
6. —————（1971）『電子計算機による新聞語彙調査』国研報告67
7. —————（1984）『日本語教育指導参考書12 語彙の研究と教育（上）』
8. —————（1985）『日本語教育指導参考書13 語彙の研究と教育（下）』
9. —————（1981）『専門語の諸問題』国研報告68
10. —————（1984）「基本語二千」『日本語教育のための基本語彙調査』国研報告78
11. —————（1984）「基本語六千」同上
12. 小林典子（1991）「必ず・確かに・確か・きっと・ぜひ」の意味分析『筑波大学留学生センター日本語教育論集』7：1-17
13. 重松 淳（1987）「大学講義スタイル分析—大学講義を聞くことを目的とした聴解用テキストの作成のために—」昭和62年度日本語教授法講座終了論文要旨
14. 東京大学工学部1989年春期日本語コース講師チーム（1989）『工学系の専門のための日本語教育』研究報告書
15. 十島真理他（1994）「大学講義における日本語の特徴—語彙の分析を中心として—」『平成6年度日本語教育学会春季大会予稿集』日本語教育学会
16. 中田智子（1991）「談話における副詞のはたらき」『日本語教育指導参考書19副詞の意味と用法』国立国語研究所：81-107
17. 野田尚史（1993）「副詞の語順」『日本語教育』52：79-90
18. 羽田野洋子（1989）「科学技術日本語と日本語教育」『日本語と日本語教育』17：38-50
19. —————（1991）「科学研究のための日本語教育」『講座日本語と日本語教育』14明治書院：37-56
20. 早川幸子他（1992）「大学の講義の分析—留学生の聴解力養成の為の基礎分析」『金沢大学留学生教育センター紀要』創刊号：35-52
21. 深尾百合子（1991）「講義・講演理解能力の養成をめざした上級聴解教材開発」『1991年度日本語教育学会大会発表要旨論集』
22. 益岡隆志他（1992）『基礎日本語文法 改訂版』くろしお出版
23. 水谷信子（1989）「中・上級の話しことば教育」『日本語教育指導参考書7中・上級の教授法』国立国語研究所：53-102

#### 〈付記〉

本研究は、筑波大学文芸・言語研究科の日本語教育特講の授業において1991年度から4年間にわたって行われた共同研究のうち、十島と金久保が担当した副詞と形容詞の分析に関してのみをまとめたものである。ご指導いただいた筑波大学文芸・言語学系石田敏子教授をはじめ、共同研究に関わったすべての皆さんに感謝申し上げる。

付表1 構造工学・言語学の副詞一覧

順	副 詞	構造	言語	計	順	副 詞	構造	言語	計	順	副 詞	構造	言語	計
1	ちょっと	75	120	195	49	いっぱい	8	4	12	100	あえて	0	3	3
2	例えば	62	102	164	49	ほとんど	9	3	12		あとで	0	3	3
3	もう(ASP)	45	32	77	49	すでに	3	9	12		いささか	3	0	3
4	あまり	10	46	56	52	もう少し	0	11	11		いずれ	0	3	3
5	全部	37	17	54	53	いくら	5	5	10		えらく	3	0	3
6	やはり	11	37	48	53	おそらく	1	9	10		ぐっと	1	2	3
7	大体	15	33	48	53	大抵	5	5	10		どうせ	1	2	3
8	まず	30	13	43	53	必ず	4	6	10		なにせ	2	1	3
9	すこし	7	35	42	57	そのまま	0	9	9		はっきり	0	3	3
10	非常に	8	32	40	57	なかなか	1	8	9		ブーンと	0	3	3
11	実は	17	22	39	57	なんとなく	6	3	9		ほぼ	3	0	3
12	よく	19	17	36	57	ほんと	4	5	9		まるっきり	0	3	3
13	ちゃんと	12	20	32	61	もともと	0	8	8		むしろ	0	3	3
14	いわば	0	31	31	62	いちいち	2	5	7		わざと	1	2	3
14	実際に	22	9	31	62	いわゆる	3	4	7		案外	0	3	3
15	かなり	11	18	29	62	実際・上	6	1	7		ひとつ	2	1	3
15	もし	20	9	29	65	いつも	1	5	6		一方	0	3	3
18	もちろん	13	14	27	65	ちょうど	2	4	6		確かに	2	1	3
18	今	15	12	27	65	つまり	0	6	6		極めて	3	0	3
20	通常	26	0	26	65	常に	6	0	6		現実	1	2	3
21	いろいろ	3	22	25	65	前に	4	2	6		さらに	2	1	3
22	もう一回	13	10	23	70	おおよそ	1	4	5		今まで	3	0	3
23	たくさん	3	19	22		すぐ	3	2	5		実際	2	1	3
23	特に	6	16	22		ぜひ	0	5	5		はじめて	2	1	3
25	だんだん	2	19	21		たまたま	3	2	5		少なくとも	0	3	3
25	一番	6	15	21		ともかく	5	0	5		突然	3	0	3
27	まだ	6	14	20		ものすごく	3	2	5		本来・は	1	2	3
28	どンドン	9	10	19		すべて	2	3	5	127	あくまで	1	1	2
29	ただ	9	9	18		大雑把	0	5	5		いかに	1	1	2
29	また	5	13	18		必ずしも	2	3	5		いつでも	2	0	2
29	大変	1	17	18	79	この間	4	0	4		おいおい	2	0	2
32	どうも	2	15	17		ごく	0	4	4		かつて	1	1	2
32	先ほど	7	10	17		さっそく	1	3	4		きちんと	2	0	2
32	本当は	7	10	17		しょっちゅう	4	0	4		こつこつ	2	0	2
35	あと	12	4	16		そっくり	1	3	4		このように	0	2	2
35	さっき	15	1	16		それなり	1	3	4		ごたごた	2	0	2
35	なぜ	7	9	16		それほど	3	1	4		ざっと	1	1	2
35	一応	5	11	16		とりあえず	1	3	4		しつかり・と	1	1	2
35	たぶん	13	3	16		なんか	0	4	4		じっと	2	0	2
35	別に	2	14	16		ぱっと	4	0	4		ずばり	2	0	2
35	全然	7	8	15		ひととおり	1	3	4		そろそろ	1	1	2
35	本当に	0	15	15		よほど	1	3	4		たんなる・に	1	1	2
43	とにかく	5	9	14		れっきとした	0	4	4		だいぶ	1	1	2
43	もっと	5	9	14		わりと	2	2	4		だーっと	2	0	2
43	いったい	6	8	14		一切	1	3	4		ちょうど	2	0	2
43	まったく	9	5	14		一般に・は	1	3	4		ちょよこ	0	2	2
47	すっと	10	3	13		今から	0	4	4		つい	0	2	2
47	当然	11	2	13		最初に	1	3	4		ついでに	0	2	2
						ときどき	2	2	4		でーんと	2	0	2
						大した	3	1	4		とても	1	1	2
						要するに・は	2	2	4		とりわけ	0	2	2

付表1 構造工学・言語学の副詞一覧

順	副 詞	構造	言語	計	順	副 詞	構造	言語	計	順	副 詞	構造	言語	計
127	どうぞ	0	2	2	176	ばちっと	1	0	1	176	しばしば	0	1	1
	なるべく	0	2	2		ばさっと	1	0	1		シー	0	1	1
	なるほど	0	2	2		ババババっと	1	0	1		すっと	0	1	1
	なんと	0	2	2		ひょっとすると	1	0	1		そのうち	0	1	1
	のこのこ	2	0	2		びーんと	1	0	1		そもそも	0	1	1
	ばーって	2	0	2		ふあふあ	1	0	1		たーって	0	1	1
	パッと	1	1	2		ふんだんに	1	0	1		たとえ	0	1	1
	ひょこひょこ	0	2	2		ブワーっと	1	0	1		ちなみに	0	1	1
	ぼんぼん	2	0	2		ますます	1	0	1		ちょいちょい	0	1	1
	まさか	0	2	2		まだまだ	1	0	1		ちらちら	0	1	1
	もう(NEG)	0	2	2		やっと	1	0	1		つるつる	0	1	1
	もうちょっと	2	0	2		ようやく	1	0	1		できるだけ	0	1	1
	もうひとつ	0	2	2		よけい	1	0	1		とうとう	0	1	1
	もともと	2	0	2		わーんと	1	0	1		とてつもない	0	1	1
	やや	0	2	2		闇雲に	1	0	1		ドンドン	0	1	1
	わざわざ	1	1	2		意外と	1	0	1		なんとか	0	1	1
	わー	1	1	2		一気に	1	0	1		はんとと	0	1	1
	延々	0	2	2		一気呵成に	1	0	1		ばーん	0	1	1
	仮に	1	1	2		一挙に	1	0	1		ばりー	0	1	1
	概ね	2	0	2		一日	1	0	1		ばーっと	0	1	1
	決して	1	1	2		確実に	1	0	1		びょっと	0	1	1
	結構	1	1	2		結局	1	0	1		ぶーっと	0	1	1
	後ほど	2	0	2		現前として	1	0	1		べた	0	1	1
	所詮	1	1	2		最後	1	0	1		ほちほち	0	1	1
	先に	0	2	2		若干	1	0	1		ポッポッポッポッポ	0	1	1
	特別・に	0	2	2		昔	1	0	1		ぼつぼつ	0	1	1
176	あつという間	1	0	1		多少	1	0	1		ほとんと	0	1	1
	いっぺん	1	0	1		同様に	1	0	1		まさに	0	1	1
	いやっと	1	0	1		念のため	1	0	1		まるで	0	1	1
	かろうじて	1	0	1		明らかに	1	0	1		もつとも	0	1	1
	かんかんに	1	0	1		滅多に	1	0	1		やがて	0	1	1
	かつちりした	1	0	1		めいっばい	1	0	1		やたらと	0	1	1
	ギッコンパタン	1	0	1		いきなり	0	1	1		より	0	1	1
	くるくる	1	0	1		いくらか	0	1	1		ひとつひとつ	0	1	1
	この際	1	0	1		いつか	0	1	1		一度	0	1	1
	ごちゃごちゃ	1	0	1		いよいよ	0	1	1		往々に	0	1	1
	さて	1	0	1		うようよ	0	1	1		概して	0	1	1
	ざーっと	1	0	1		おのずと	0	1	1		金輪際	0	1	1
	じいっと	1	0	1		おりよく	0	1	1		今さっき	0	1	1
	すいすい	1	0	1		カンカン	0	1	1		今度	0	1	1
	ずいぶん	1	0	1		がたがた	0	1	1		今日	0	1	1
	ぜいぜい	1	0	1		がむしやらに	0	1	1		次々に	0	1	1
	せっかく	1	0	1		ガラッと	0	1	1		絶対	0	1	1
	ちっとも	1	0	1		ガンガン	0	1	1		先日	0	1	1
	ついで	1	0	1		きやー	0	1	1		前回	0	1	1
	とかく	1	0	1		ぎちって	0	1	1		相当	0	1	1
	とっさに	1	0	1		ごろごろ	0	1	1		多かれ少なかれ	0	1	1
	とんでもない	1	0	1		さしあたって	0	1	1		途方もなく	0	1	1
	どうして	1	0	1		ざそかし	0	1	1		薄々	0	1	1
	どうにも	1	0	1		さっと	0	1	1		未だに	0	1	1
	なにも	1	0	1		さっぱり	0	1	1		唯一の	0	1	1

付表2 構造工学・言語学の形容詞一覧

順	構造工学イ	頻度	順	構造工学ナ	頻度	順	言語学イ	頻度	順	言語学ナ	頻度
1	いい	207	1	だめ	14	1	いい	122	1	だめ	23
2	いけない	14	2	簡単	9	2	おもしろい	28	2	大き	10
3	等しい	12	3	重要	5	3	多い	20	3	好き	6
4	うすい	9	4	大き	4	4	少ない	13	4	大事	5
4	細い	9		大変	4	5	大きい	11	5	いろいろ	4
6	小さい	6		得意	4	6	あたらしい	9		小さ	4
7	多い	5		変	4		近い	9	7	きれい	3
8	よろしい	4	8	いや	2		古い	9		必要	3
8	細かい	4		基本的	2		難しい	9		変	3
10	やさしい	3		幾何学的	2	10	長い	7	10	基礎的	2
	大きい	3		厳密	2	11	悪い	6		巨視的	2
	低い	3		単純	2	12	まずい	5		重要	2
	面倒くさい	3		適当	2		広い	5		職業的	2
14	ありがたい	2		等価	2	14	いけない	4		大丈夫	2
	インチキ臭い	2		微小	2		こわい	4		大変	2
	うまい	2		複雑	2		すばらしい	4		無理	2
	えらい	2		面倒	2		小さい	4		有効	2
	おもしろい	2	18	スティカイイバント	1	18	かたい	3		拗音的	2
	しんどい	2		でこぼこ	1		すごい	3	19	ファンタスティック	1
	わかりやすい	2		ビューアー	1		細かい	3		リアリストック	1
	広い	2		ポピュラー	1		正しい	3		安直	1
	荒っぽい	2		横着	1		短い	3		印象的	1
	高い	2		概念的	1		痛い	3		下手	1
	細長い	2		完全	1	24	うれしい	2		革新的	1
	騒がしい	2		結構	1		おかしい	2		滑稽	1
	難しい	2		嫌い	1		くわしい	2		元気	1
27	うるさい	1		最終的	1		せまい	2		個別	1
	くだらない	1		支配的	1		つまらない			実用的	1
	ひどい	1		似たよう	1		よろしい	2		直音的	1
	まずい	1		上手	1		高い	2		典型的	1
	やりにくい	1		正確	1		弱い	2		統計的	1
	わかりにくい	1		静的	1		深い	2		動的	1
	安っぽい	1		大丈夫	1	35	明るい	2		特殊	1
	違いない	1		大切	1		めずらしい	2		特別	1
	柔らかない	1		動的	1		ありがたい	1		微視的	1
	重たい	1		難しそう	1		いいにくい	1		標準的	1
	少ない	1		微妙	1		うるさい	1		不思議	1
	新しい	1		必要	1		かしこい	1		明快	1
	正しい	1		物理的	1		かわいい	1		優雅	1
	太い	1					くだらない	1		有名	1
	長い	1					ずるい	1		容易	1
	平べったい	1					だらしない	1		立派	1
							ひどい			曖昧	1
							めんどくさい	1			
							やかましい	1			
							安定しやすい	1			
							鋭い	1			
							強い	1			
							興味深い	1			
							激しい	1			
							若い	1			
							取り扱いにくい	1			
							柔らかない	1			
							重い	1			
							美しい	1			